



# つながり

奈良県立ろう学校 特別支援部  
2019年 10月号



ご参加ありがとうございました



## 第2回担当者研を開催しました

8月22日(木)、第2回担当者研を行いました。滋賀県立聾話学校教諭 学校心理士 西垣正展先生の講演を聞いたり、情報交換を行ったりしました。

### ★西垣正展先生★講演会★

「きこえにくい自分に気づくことの大切さ」

～聴覚障害者として主体的に生きる力を育てるために～ 西垣正展先生

地域の学校において難聴児を担当されている先生方に向けて、講演をしていただきました。

はじめに「当事者の障害に関わる意識の実態」を、事例やご自身の経験も踏まえて丁寧にお話いただきました。さらに、「当事者への支援をどう進めるか」を5つの事例から状況、背景を考察して支援の方策を導きだし、課題の解消に必要な実践とは何かを具体的に説明していただきました。

次に、自立活動の取り組みの一例である「困りごと」を紹介していただき、聴覚障害者が普段の生活の中で不便に感じている「困りごと」を言語化し、対話の中で自分の困りごとの解決に向けて一緒に考えてもらう＜共感＞、自分がそのことを本当に困っているのかを確認することで「困りごと」となっていることの状況を正しく知る＜確認＞、「困りごと」を語るのは恥ずかしいことではなく、自分や他の人をつなげる大事なことである＜つながり＞、の3点を語っていただきました。

最後に、「きこえにくい子どもたちに私たちができること」についてお話いただきました。当事者が課題に向き合いやすくする雰囲気を作ることや、自分の話をまず聞き、そして一緒に考えること、さらに、解決できる喜びと自信をつけることの大切さを説明していただき、当事者が本人の感じ方を言葉で伝えることは、当事者の置かれている状況を社会に具体的に発信することになり、社会を変えていく一歩になるということをお話いただきました。

西垣先生の講演は、我々教師が聴覚障害を抱える子どもたちに対してどのように支援すべきか、また、聴覚障害のある子どもたちが自分から社会に向かって発信するためにはどうすればよいのかなど具体的な支援方法が多く、とても興味深い内容でした。教師は子どもたちに自分の「困りごと」について考えさせ、気づかせ、そして語れる環境を作り、自らの力で解決できる喜びと自信を身につけさせる、そういった支援を日常から行うことが子どもの充実した学校生活につながるのだと思いました。

( 文責：服部 宗晃 )

## 8月23日（金）中高生企画

毎年、夏休み中に行われている「中高生企画」。今年は地域の中高生や元奈良ろう生など6名、校内生1名の計7名が参加してくれました。

今年も大学生や社会人の先輩たち3名が主となり中高生企画を進めてくれました。今年初の試みとして、前半に本校の今岡よりミニ研修を企画しました。内容は「オーディオグラムを書こう！」です。オーディオグラムの見方や、聴力の計算の仕方などの研修を受け、その後実際にオーディオグラムを見ながら計算する実践も行いました。その中で、わからないところは隣の人に声をかけてお互いに確認しあったり、先輩たちがサポートしてくれたり、とても自然な形で交流が行うことができました。

後半は、座談会の形式をとり、学校生活で困っていること、将来に関する不安、また私の学校ではこんな支援をしてもらっているよ！などなどそれぞれ話してもらいました。中でも将来に対して不安を抱えている中高生が多く、それに対して先輩たちが経験を踏まえながら、丁寧にアドバイスをしてくれました。最後には、困った時にいつでも相談したり、情報交換ができるようにお互いの連絡先を交換し合う様子がありました。

（文責：那知上 舞）

### ☆当日の様子☆



オーディオグラムの見方  
わかるかな？



UDトークっていうアプリ  
知ってるかな？